祖先をふるさとの地に

奄美人遺骨362体の返還を求めて

与論島品覇海岸墓地(1987年)

はじめに

7年をかけて得たもの…

□ 京都大が公表した遺骨の概要

鹿児島県 奄美群島	奄美市(奄美大島)	1933年	計 360体
	伊仙町(徳之島)	1935年	
	喜界町(喜界島)		
沖縄県	本部町(沖縄本島)	1933年	計 106体
	那覇市(同)		
	南城市(同)		
	詳しい採取地が不明	1929年	

京都大が公表した遺骨の概要

奄美人遺骨約362体の返還を求め、2026年3月27日、7年ぶりに京都大を訪問した。

しかし、事前に文書で申し入れたにも関わらず、総合博物館側は前日にメールで回答済みといい、窓口は大学本部だと押し返された。本部でも同様に直前に回答文書を郵送済みだとして対応できないとのことだった。

京都大大学院教授・駒込武氏が仲介の結果、法務部所属(コンプライアンス部法務室、前回は総務部) と名乗る職員が現れ、ようやく玄関口で一枚の回答文を得たが、面談は叶わなかった。また、その回答文たるや、当会が求める遺骨の現認、謝罪・返還・賠償には全く答えず、前回同様に1ミリも前進のないものだった。

7年は私たちには全くの骨折り損だった。

京都大と奄美・沖縄の遺骨を巡る経緯

1929年	京都帝大の助教授金関丈夫が百按司墓などから沖縄県内での遺骨持ち出し開始
30年	同大の講師・三宅宗悦が奄美3島でも持ち去り開始
2017年	国連総会で「先住民族の権利に関する宣言」が採択
4月	新聞報道で松島泰勝が返還運動
2018年 2月	奄美で「265体」の遺骨返還求め連絡協議会結成
12月	百按司墓の子孫ら、京都大を相手どり、遺骨返還求め提訴
19年 3月	台湾大が沖縄県から持ち出された遺骨63体を沖縄県教委に返還
5月	アイヌ施策推進法が施行
22年 4月	京都地裁が訴えを棄却、原告が高裁に控訴
23年 9月	大阪高裁が原告の控訴を棄却（付言で話し合い要請）
10月	台湾大が返還の遺骨のうち、百按司墓21体を今帰仁村の施設に移管
25年5月	京都大が今帰仁村に26体移管
11月	京都大、奄美・沖縄466体の保有と返還指針を公表

世界の時流に背を向ける京都大

大学や研究機関がコレクションしてきた、世界の少数民族の遺骨はいま、謝罪と返還が本格化している。

だが、社会的糾弾を恐れる京都大は、国内大学でも最も遅れた対応を示し、自身の権威を守るのに必死だ。協力的な自治体（たとえば沖縄県今帰仁村）には、共有物化した上で協定移管するが、故郷の墓地に埋葬・供養をと訴える民団体の声は黙殺し続けている。

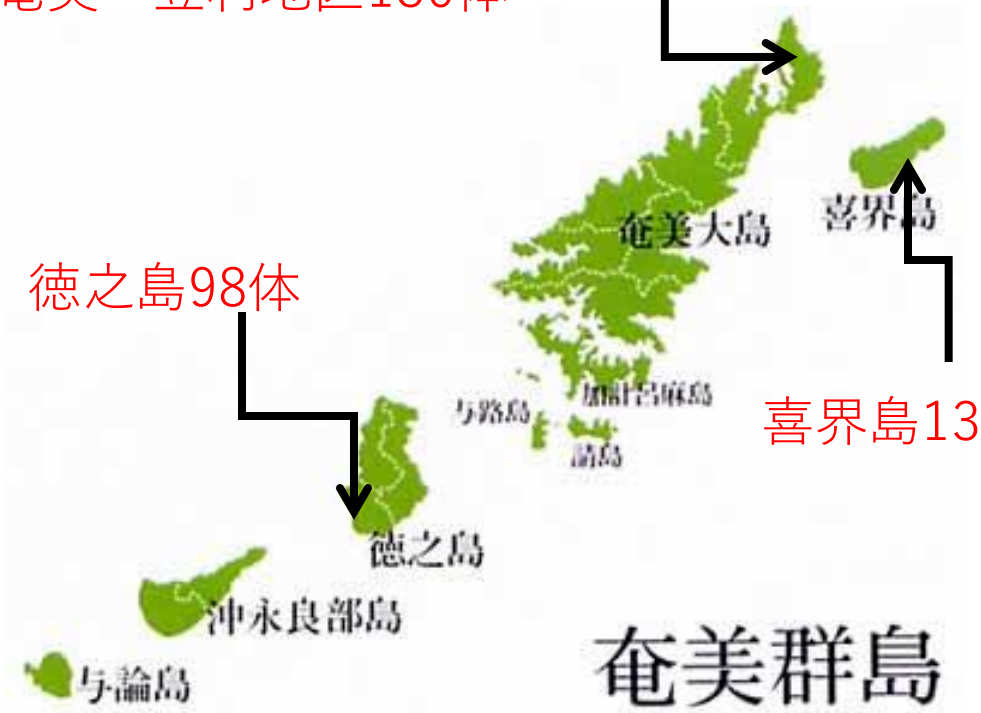
この間、京都大が明かにしたのは2025年11月のガイドラインなるものだけで、自らの都合の良い、手前勝手な解釈を示したに過ぎない。不法領得の疑いが強い郷土の先人の遺骨を、自らの所有物のように振る舞う京都大の姿勢を改めて糾弾すると共に、現時点からの事件の背景と問題点を報告する。

Ⅰ： 奪われた遺骨を追って

奄美人362体の〝本籍〟

奄美人362体の採集地

奄美・笠利地区130体



徳之島98体

喜界島132体

那覇市若狭
アカチラバル2体

奄美遺骨蒐集地① 奄美大島・北部

大島郡笠利村万屋字城間トフル墓ほか13地区

奄美遺骨蒐集地② 徳 之 島

徳之島町本川ほか1地区

奄美遺骨蒐集地③　喜界島

大島郡喜界村赤連ダンムチほか9地区(写真は上嘉鉄ハネッパル)

奄美人採取地④ 沖縄島

那覇市若狭アカチラバル。かつての無縁墓地付近

国内最多蒐集地の奄美諸島

奄美諸島	奄美大島など3島	265➡360体
愛知知多半島	吉胡遺跡	302体
沖縄島	今帰仁村運天ほか	106体
アイヌ民族	樺太島眞岡ほか	112体

(清野謙次『古代人骨の研究に基づく日本人種論』1949年、岩波書店)

※清野は分類上「日本**特殊地方**及びその近接地域・特殊時代人骨」を設け、琉球(沖縄)、奄美、アイヌを同分類化、ジャンル分けしている(徳之島・伊仙村喜念22例は「石器時代人骨」に分類)

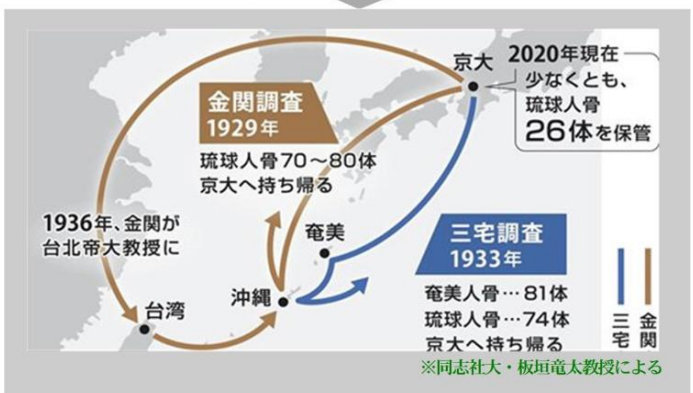
※清野本では国内最多は渥美半島・吉胡遺跡。奄美群島はこれに継ぐ蒐集地になっているが、最新の京都大公表では奄美がこれを上回る**最大蒐集地**になっている。なぜ精緻さを誇ってきた清野コレクション遺骨数が変化したのか説明はない。

Ⅱ:奄美近代と人類学

京都帝大による奄美人遺骨蒐集の概略

	主な出来事	奄美の遺骨関連記事
1920年(大正9)年 1921年		陸軍、奄美要塞の築城開始 奄美のアナキストら反基地闘争
1922(大正11)年	ワシントン軍縮会議 (日本の軍備力削減決定)	奄美大島要塞の縮小へ カソリック神父をスパイ容疑で追放
1927(昭和2)年	昭和天皇が来島	
1929(昭和4)年1月	国内不況と世界大恐慌	京都帝大解剖学教室助教授・金関丈夫が琉球調査(百按司墓など自ら70例蒐集) ↑ 赤面原での奄美人2人の行路病死人も
1931(昭和6)年	満州事変	
1933(昭和8)年	日本、国連脱退	名瀬で邪教排撃運動起こる。町民大会が国体に反すと大島高女の糾弾決議。廃校へ。
1933.12		病理学教室講師・三宅宗悦が奄美・沖縄調査(笠利78例、沖縄約70体の遺骨蒐集)
1934(昭和9)年		要塞司令部「力教教義は国体・国民精神と相いれず」と弾圧
1934.5		三宅、各地で講演「奄美は立派な日本人だ」 名瀬青年団「奄美はアイヌに非ず」決議
		要塞司令官・下村義和、三宅が島民の精神発揚に貢献と感謝状
1935(昭和10)年		三宅、喜界島93例、徳之島92例の遺骨蒐集
1936(昭和11)年		金関、台北帝大教授に転出。京都帝大の遺骨を寄贈
1937(昭和12)年	日中戦争が勃発	奄美大島要塞の軍備増強 名瀬・聖心教会に、日の丸が掲揚に

その後…



※同志社大・板垣竜太教授による

沖縄

戦後も人類学権威

金関丈夫

京都帝大医学部　解剖学教室(1920-30)

教授	清野謙次
〃(第二講座)	足立文太郎
助教授	金関丈夫
講師	三宅宗悦

解剖学⇒異例の人類学⇒人骨蒐集

「帝国主義」下の民族学へ

清野教授は日本人が同一の祖先であるとする、「日本原人」説を唱え、これが大日本帝国が「外地」に領土を拡大する理由付けのひとつに。

アイヌ

狂気の指揮官

清野謙次

●生体染色の研究で世界的権威に
●国府遺跡の発掘。考古学ブーム
●樺太アイヌ人墓地から人骨盗掘
●1924年、アイヌ人と縄紋人とは骨が異なると指摘し、アイヌとは異なる均一人種が日本に存在と「日本原人」説を展開
●1938年古刹の通報で手形、経典数十点の窃盗が発覚、逮捕(清野事件)

ハイドの心境
法廷に述懐
清野謙次博士の公判

●京大追放に。東京へ転出
●太平洋協会の嘱託となり、大東亜共栄圏建設に人類学者として参加。京都大学での愛弟子・石井四郎が部隊長の731部隊の最高顧問に。

人骨量の絶対数不足を痛感

複雑な奄美の事情を巧みに利用

- カソリック排撃運動 — 地元国粋主義者と協力
- 要塞司令部と軍国化 — 「島民発揚」と軍が表彰
- 奄美アイヌ同源説 — 講演で「立派な日本人」力説

大量蒐集に成功

三宅宗悦

奄美の古墓に着目

奄美

京都帝大

清野コレクション=国内やアイヌ、植民地から蒐集人骨約1500体

金関⇒沖縄から70～80体
(うち赤面原無縁墓地の奄美人2体)

三宅⇒奄美大島78例、沖縄本島70体
喜界93例、徳之島92例

京都大総合博物館

台湾大学

台湾大から63体返還(うち奄美関係2体か)

沖縄県埋蔵文化財センター

遺骨返還運動の経緯

2018(平成30)年
(1-3月)松島教授が京都大に奄美人遺骨267例収蔵明らかに。
奄美側が3島連絡協議会
(12月)琉球民族遺骨返還を求め子孫ら、京都大を提訴

2019(平成31)年
(3月)台湾大、保管遺骨63体を沖縄県埋文センターに返還
(10月)奄美側、京大総長面談求め訪問も拒否。京大で奄美遺骨シンポ

2021(令和3)年
(1月)沖縄県教育庁に遺骨返還求め住民監査請求
(6月)那覇市泊の赤面原で奄美人遺体盗掘現場で初の供養祭

清野謙次の時代と狂気

京都大には、清野謙次が蒐集した１,５００体を超す遺骨の大半があって、最近まで「世界に誇る清野コレクション」として展示されてきた。現在は京都大総合博物館が収蔵中。非公開。

なぜ人骨蒐集に狂奔したか

京大病理学の権威

清野謙次(1885-1955)は、京大病理学教室の専任教授時の1938年、生体染色の研究で世界的評価を得た。一方で先史時代の人骨を収集、人類学者・考古学者としても活発に活動した。

原日本人説

清野はアイヌ人と縄紋人とは骨が異なることを指摘し、アイヌ人とは異なる均一人種が日本にいたとし、これを「日本原人」と呼び、『日本原人論』を出版し、東大の小金井良精考古学教授の縄紋人アイヌ説に反論、脚光を浴びた。

異様な足跡

清野は古刹から経典類を盗み逮捕される京大事件を起こし、京大を追われた。東京に転じて大東亜共栄圏運動や731部隊を指導。戦後、アメリカとの 密約で戦犯追及を逃れ、東京医科大教授などで医学と考古 学の分野で影響力を残した。

沖縄担当の金関…台湾、戦後学会を牽引

京都帝大学医学部卒。同解剖学教室助手，助教授を経て，台北帝国大教授。戦後，国民党政府によって台湾大学に留用，人類学教室の基礎づくりに貢献した。1950年，九州大医学部教授。業績の一方、沖縄での墓暴き、盗掘が問われている。

金関丈夫『琉球の旅』（1929）

▽他に今一つの心配があった。せっかく見つけた骨を首尾よく持ち帰れるか。琉球人は厚葬の風のみならず、人骨に迷信が…

▽行旅病屍の埋葬地は那覇市若狭町の北方、赤面原の砂浜。1月22日早朝より発掘。9体のうち第2、第3号は奄美大島人、頭蓋1個は伊平屋島人…

那覇の無縁墓地の「奄美大島人」

2/362

「昭和の遺体は文化財ではない」

- 金関丈夫が那覇市若狭・赤面原の無縁墓地から持ち去った奄美大島人2体は「行旅死亡人」で、昭和初期に死亡した「明治生まれ」と推認される。
- 従って文化財保護法でなく、「行旅病人及行旅死亡人取扱法」の適用を受けるのが本来だ。
- 金関は強引に関係機関を説得、最終的に黙認の形で持ち去っており、行旅法に反したのに加え、「死体損壊・遺棄罪」に該当する疑いがある。
- 京都大は自らの過ちを認め、謝罪・返還を。

清野の忠実な部下…講師・三宅宗悦

1920-30 医学部解剖学研究室	教授 清野謙次	第二講座 教授 足立丈太郎	助教授 金関丈夫	講師 三宅宗悦

三宅宗悦の使命感

●清野コレクションの絶対量不足が課題。アイヌ民族に片寄り、重点を南島へ

●金関助教授の台湾医専転出(S9)を控え、後任を自負する三宅は、研究室の期待に応るべく遺骨蒐集1,000例を目標に南島での蒐集を企図

●沖縄は金関が成果を収めており、処女地の奄美に着目。地元研究家の茂野幽孝の著書『奄美大島葬制』で古墓(ムヤ、フール墓)に焦点。

●当時の鹿児島県知事・市村慶三が三宅の叔父の友人。大島支庁長、警察署長ら現地要路へ紹介状を依頼。要塞司令官をも訪問、事前打ち合わせ

貝塚調査を前面に遺骨蒐集へ

三宅宗悦
1905-44

京都生まれ。京都府立医大から京都帝大。助手、講師。沖縄・奄美調査。奄美に3度来島し、大量の遺骨蒐集。レイテ島沖戦死

島民は持ち出しを許したのか

後ろめたさ残す蒐集

- 我らは貝塚を目標とした。元来貝塚は墓地ではない…(清野謙次)
- 法規上、墳墓なるが為に積極的に発掘し得ず(同)
- (洞窟で)保存良い数例。今は拝まないが、まだその家もあるといわれ人骨を返す(奄美で三宅宗悦)
  ⇒実際は１０体持ち帰る。

京都大

(琉球民族遺骨返還訴訟の被告人主張等から)

許可を得た蒐集で、盗掘ではない。遺族、自治体の要求には返還検討。

沈黙する遺族・地区民

- 鹿児島県知事の紹介状持参し、警察署長、県大島支庁長を訪問
- 地元有力者・新聞記者を帯同
- 基地司令官を訪ね、事前に撮影地などについての諾否を相談
- 人類学進展への協力の重要性を吹聴力説

地元民

(笠利町万屋字城間の地区民の証言)

風葬墓は集落が守ってきた。今も地区民が祀っている。

Ⅲ:遺骨蒐集の時代背景

三宅の来島前の奄美人の状況

「近代」との苦い出会い

□ 長い砂糖植民地からの解放（勝手世騒動）
□ 新しい時代の模索（学問の世、カ教神父の招聘）
□ 明治３１年、与論島で大飢饉。三池炭鉱へ集団移住
⇒差別的待遇（「牛馬扱い」と移民一世）
□ 明治４０年、大阪商船が大島経由沖縄航路開設
（産業革命で都市労働者不足➡関西に出稼ぎ年３万人）
□ソテツ地獄（大正期の糖価暴落）、ブラジルなど移民熱

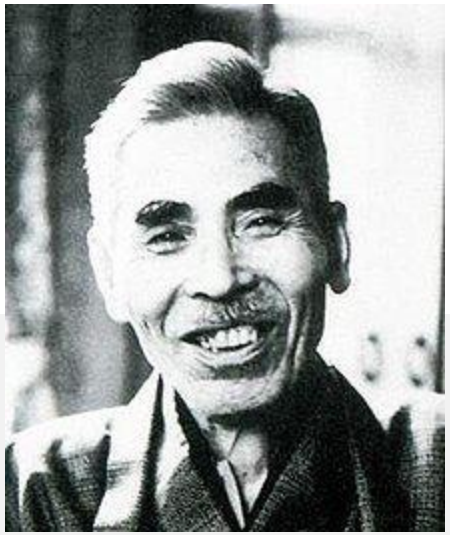
つきまとう偏見・差別

□言語・習俗への本土側の蔑視
（関西の労働者募集「但し朝鮮人・大島人お断り」の貼り紙）
□軍隊内で奄美人兵士への差別
□鹿児島側による離島民圧迫

島民の生活苦と精神的不安

自由を求めて

明治・・・脱出路の模索



「われ等の祖先がアイヌの末裔でないまでも、少なくとも体質中にアイヌの血を多少とも混じっていることは争われない。だが、これは独り奄美人だけではない。敢えて悲観するに当たるまい」
（昇曙夢『われ等の祖先について』）

奄美人の祖先はアイヌなりや…

深刻なアイヌ同源説…動揺する奄美人

□江戸期から縄文人のアイヌ説
□伊波普猷、多毛で「奄美アイヌ同源説」
□独教授ドゥダーラインが「ハヂチ」からアイヌ説
（東京帝大・鳥居龍蔵も）
□独医師ベルツが小倉師団・奄美人兵士の体格調査
□ナチス純血主義が日本席巻…単一民族国が大手

軍隊内・出稼ぎ先での差別

落胆消沈の奄美人

奄美の軍事基地化とカトリック教

1920(T9)	南部大島に陸軍要塞司令部築城
1922(T11)	ワシントン軍縮会議 (奄美要塞計画の縮小)
1927(S2)	昭和天皇が奄美視察 カソリック神父をスパイ追放
★ 1933(S8)	名瀬で邪教排撃運動。大島高女の廃校決議
★ ★	角和大佐「カ教はわが国体と相容れず」➡　排撃激化
1937(S12)	日中戦争 要塞基地の増強
1945(S20)	名瀬聖心教会、空襲炎上 敗戦

(★印は京都帝大の遺骨蒐集年)

軍国化の波が奄美の島々を戦時色に塗り込めると同時に…カトリック弾圧の火の手が上がり、要塞司令部にあおられた青年団員らの排撃運動を一層過激にし、ついには聖堂が焼き払われるに至った。

M24年、宣教師フェリエが布教開始。長崎に継ぐ信徒率。教会がある農村部では見慣れた光景(笠利町手花部)

三宅宗悦のアプローチ

奄美の混乱に乗じて蒐集・・・

アイヌ説を否定

「皆さんは立派な日本人」

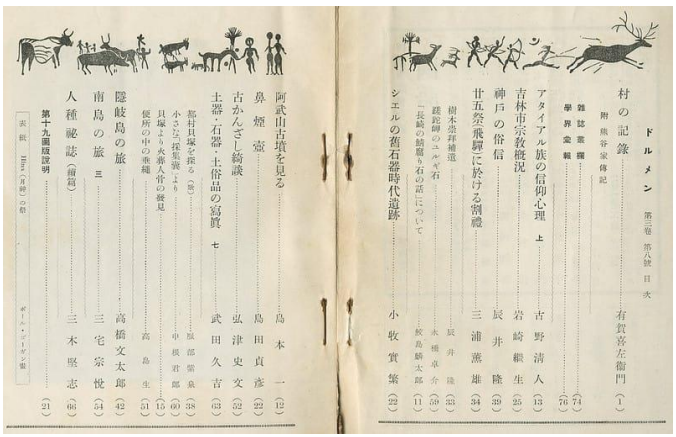
清野の「日本原人説」を援用
島内各地で講演しアイヌ説否定
感極まる島民、三宅の調査に協力
名瀬の青年団が「アイヌに非ず」決議

軍国主義と歩調

地元案内役・茂野幽孝はカ教排撃提唱者
奄美要塞司令部との調査事前打ち合わせ
アイヌ問題で島民鼓舞と要塞司令官が感謝状

救済者として

遺跡研究の権威として貝塚発見者に名刻む
貝塚調査…文化の誇りたい地元に対応



ドルメン　第三巻　第八號　目次

村の記錄……有賀喜左衛門（一）
附　熊谷宗傳記
雜誌業報……（71）
學界業報……（76）
アタイアル族の信仰心理　上……古野清人（13）
吉林市宗教概況……岩崎鎮生（25）
神戸の俗信……辰井隆（26）
廿五祭飛騨に於ける割禮……三浦蒸雄（34）
樹木崇拜補遺……辰井隆（38）
路祖神のユルギ石……木橋章介（38）
「長崎の鎮り石の話」について……桜島麟太郎（41）
シエルの酒石器時代遺跡……小牧實繁（42）

画武山古墳を見る……島本一（12）
鼻煙壺……島田貞彦（22）
古かんざし綺談……弘津史文（32）
土器・石器・土俗品の寫眞　七……武田久吉（48）
都甘尻を探る（後）……阪部榮泉（38）
小さな探集談より……申根君郎（60）
貝塚より火葬人骨の發見……（15）
便所の中の亜鉛……高島生（51）
隱岐島の旅……高橋文太郎（42）
南島の旅　三……三宅宗悦（54）
人種祕誌（前篇）……三木堅志（66）
第十九圖版說明……（91）
英紙　ハーン（青柳）の船
ポール・ゴーガン畫

三宅の奄美調査は丹念に日記に記され、雑誌「ドルメン」に連載された

要塞
司令部

軍機
保護法

軍国
教育

アイヌ
同源説

薩摩藩
の圧政

スパイ
監視

カトリック
排撃

優性
思想

奄美362体の蒐集

三宅の巧みな戦略

清野人骨コレクション1千体の目標を奄美で達成した三宅壮悦は感極まって京都帝大・清野のもとにさっそく打電している。

「(1933年12月21日・赤木名小学校校庭で)人骨を詰めるのは僕の役目、これだけは自分でやらないと不安だ…。郵便局に駆け付け、清野先生に『キョウノシュウジンコツ1000トッパ、カイヅカモハッケン』」

琉球人遺骨問題の奄美波及
発端の学会発表

2018・3・3

日　新　聞

【第３種郵便物認可】

奄美の風葬墓から265例

遺骨返還求め運動へ

京都大、研究目的で持ち出し

旧帝国大学の人類学者らが北海道や琉球列島の風葬墓から遺骨を持ち出した問題で奄美大島、喜界島、徳之島からも多数の遺骨が運び出されたとして、奄美市の研究者らが3日、同市名瀬で記者会見し、遺骨を所蔵する京都大学への返還運動を始める考えを示した。3月中に運動推進の連絡協議会を設立するとともに、風葬の習慣があった地域で説明会を開いて住民への遺骨持ち出しの実態周知と情報収集を図る。

返還運動の発起人は、奄美市名瀬のフリーライター原井一郎氏（68）と、民族研究などに取り組む大津幸夫氏（84）。原井氏らの調査によると、1933～35年、京都帝国大学の研究者らが島から遺骨を持ち去った。喜界島93例、徳之島92例、奄美大島80例の計265例とされ、現在も京都大学の自然人類学研究室に所蔵されているという。

遺骨の持ち出しは民族のルーツ調査などが目的だが、原井、大津両氏は「盗掘に近い手法での収集は、純粋に研究目的だったとしても看過できない多くの問題を含んでいる」と指摘。「祖先の魂の象徴ともいえる遺骨については、全てを返還すべき」として、京都大学に返還を求めるとともに、奄美から多数の遺骨を収集した背景などについても説明を求めていく方針だ。

現地説明会は奄美市笠利町、喜界町、伊仙町で開く予定。島別での推進団体設立も呼び掛ける。

原井氏と大津氏は「まずは、遺骨持ち出しの事実があったことを地元住民に知ってもらい、地域全体での返還運動につなげたい。沖縄や北海道とも連携できれば」と話し、持ち出された地域が分からない遺骨の対応などについては、島別での共同埋葬も含めて今後の検討課題とした。

遺骨返還運動への取り組みについて説明する（右から）大津氏と原井氏＝3日、奄美市名瀬

2017・12	松島泰勝龍谷大教授、京大に百按司墓の遺骨返還要求
2018・1	東アジア研で松島教授、奄美から大量蒐集明らかに
・3	奄美人267例返還要求へ 三島連絡協議会発足
・12	琉球民族遺骨返還求め子孫ら京都大提訴
2019・3	国立台湾大、琉球遺骨63体を沖縄県教委に返還
・10	京都大総長との対話求め訪問も門前払い
2021・6	沖縄県教への奄美人確認と若狭埋葬地の初供養

活動

京都大、返還の意思いぜん示さず

▼**2018･3 京都大広報課　小西博之課長補佐**
「本学の所蔵品は把握途上にあり、人員も限られ、収蔵状況等の個別問い合わせに応じるの難しい」

▼**2018･12京都大総務部総務課**
「1994年9-12月に保管箱を交換。ご指摘の人骨は移し替えて収蔵、現在総合博物館に保管している」

▼2019･8京都大学総合博物館
「清野氏収集資料は順次調査中。なお時間を要する」

▽**2025･12　京都大、遺骨対処「ガイドライン」公表**

▽**2026･3　奄美協が説明と返還要求**

放棄された収蔵箱
京都大キャンパス内ゴミ集積所に放置されていた遺骨収蔵箱の蓋。喜界島の蒐集遺骨を収めたとみられる墨跡がある。琉球人返還訴訟の証拠品に。

経緯

第二回講話の要点

①奄美の死生観と葬法
②核家族化と変容
③人類学の行方
④京都大学の居直りの背景
⑤海外の返還運動と現状
⑥返還運動のあり方